

DX+

データ利活用の 最終解



Theme



Use Case



Reference
Architecture





テーマ / Theme

ビジネスを加速させるための取り組みをご紹介

データ利活用の 最終解

コスト削減

売り上げ拡大

データ利活用

クラウド/サーバー

ネットワーク

課題 / Issue

有用なデータが各部門に散在している

DXに向けたデータの利活用を始めたものの、有用なデータが各部門に散在するサイロ化により取り組みが一向に進まないケースは珍しくない。データを探すためには、各部門のシステム

を一つひとつあたり、場合によっては人づてに聞いて回る……と、地道で手間のかかる作業が必要になるためだ。

概要 / Overview

散在するデータを統合するハブを構築

課題を解決し、データの利活用を前進させるためには、「データ統合ハブ」の構築が効果的だ。

「データ統合ハブ」は、複数の異なるソースからデータを自動で吸い上げる機能、データの形式などを揃えて利用しやすい整然

データを生成する機能、さらに、必要なときにデータを検索できる機能も備えている。また、データを独自のレイヤと捉えるアーキテクチャ(基本設計思想)であるため、データがオンプレミスサーバーにある場合でも、VPN内にある場合でも、パブリッククラウドに移し替えることなく構築が可能だ。



ユースケース / Use Case

テーマを実現による業務の変化・メリットをご紹介します

Use Case 01

研究・開発を加速

研究・開発の分野では、さまざまなデータが使用されており、データを探すのに膨大な作業時間が奪われることも珍しくない。「データ統合ハブ」を設けることで、データを探す作業時間を短縮し、研究・開発に集中できるようになる。

Use Case 02

開発・保守の費用削減

データが各部門に散在している場合、データ連携が複雑化し、その管理に必要なシステムの数も多くなる。さらに、その分の人的リソースを割く必要もある。「データ統合ハブ」は、データ間の関係をシンプルにしてくれるため、データ連携に要するシステムの開発や保守に要する費用を削減できる可能性がある。



リファレンスアーキテクチャ / Reference Architecture

テーマを実現するシステム構成をご紹介します

アーキテクチャ上のポイント

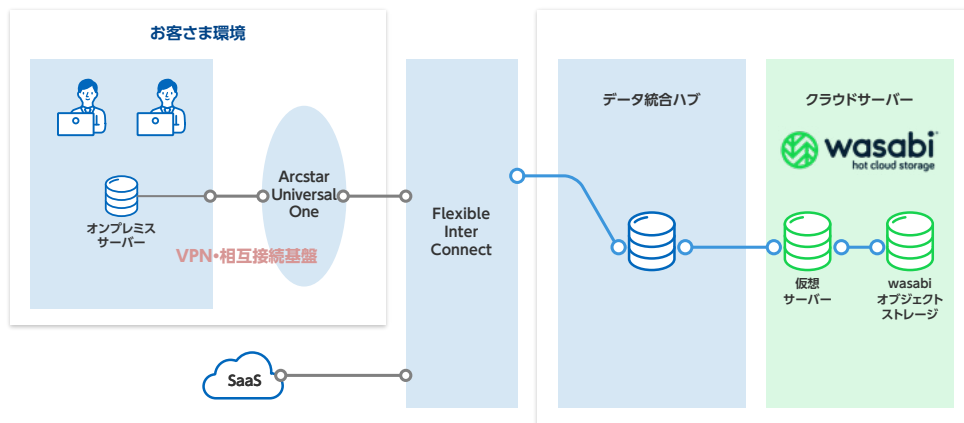
Point

本構成のポイント

- 社内に分散するデータを容易に検索、収集、加工できる「データ統合ハブ」の構築
- 機密性の高いデータを扱うことを想定しVPNなどの安全な通信経路の確立

導入効果

- 各部門に分散するデータの集約により DX 推進を加速
- データ利活用の公立かによる稼働の軽減
- 開発・保守にかかるトータルなコストの削減



詳しくはこちら





本件の詳細につきましては、
お気軽にNTTコミュニケーションズにお問い合わせください。

[お問い合わせはこちら](#)